

環境経営学会会告 研究会参加メンバーの募集(2024年1月)

環境経営学会では、現在、以下の6つの研究会活動を実施しています(研究目的等は資料1 環境経営学会研究会一覧をご覧ください)。

- ・真資本主義研究会
- ・生物から学ぶ企業経営研究会
- ・エシカル消費研究会
- ・経営診断推進委員会
- ・サステナビリティ経営会計研究会
- ・環境ビジネス研究会

この度、以下の研究会が発足されましたので、共同研究を行うメンバーを募集いたします。

インターナルカーボンプライシング研究会

今後、民間企業では、インターナルカーボンプライシング導入のニーズが急速に高まることが想定される。この将来ニーズを捉えて、わが学会がインターナルカーボンプライシングを先行して研究し、研究成果を将来、企業に提供していくことを目指すプロアクティブな研究会活動である。

詳細は、資料2をご覧ください。

参加ご希望の方は、以下の様式で事務局 (smf@smf.gr.jp) までメールでご連絡ください。

件名：研究会参加願ひ

本文：参加したい研究会の名称

氏名

所属

専門分野等

なお、これらに加え、新たな研究会の積極的な発足を歓迎します。研究会を立ち上げたい方は、企画内容を所定様式 (<http://www.smf.gr.jp/data/doc/studyapplication.docx>) に記載の上、学会事務局までご連絡ください。

資料1 環境経営学会研究会一覧

研究委員会等	研究目的等
真資本主義研究会 ◎岡本享二、花田眞理子、丸山秀一、宮崎智子、村井秀樹	新資本主義 or 真資本主義を標榜して、経済志向の資本主義から Karl Polanyi や宇沢弘文が指摘していたような「人類の幸せのための経済学」のあり方を問う。経済学（者）の系譜をたどり最新科学技術の急速な発展による社会構造の変革をベースに、新たな資本主義の正しいあり方を導き出す。現在、政府が推進している「新資本主義」に歩調を合わせて、国への提言を行う。
生物から学ぶ企業経営研究会 ◎岡本享二、宮崎智子	昆虫をはじめとする生物から学んで現在の経営に生かす手法をリードすることを目的に、当研究会では、従来の資源、エネルギーの多用と、環境負荷や社会問題の発生を廃し、モノからコトの時代に即した企業経営の効率化を考え、ますます重要となる「企業倫理」「SDGs 思考」「企業文化」を網羅した経営組織の構築に寄与する。
エシカル消費研究会 ◎浜野隆行、◎吉橋正浩 花田眞理子（アドバイザー）	エシカル消費は本質的な理解や仕組みが不完全なまま、言葉だけが独り歩きをしている。結果として本来の意味と異なる期待や意味が付加され、惑わされる現象が起きている。しかし、Z世代をはじめエシカルを志す消費者は増加しているのは確か。本研究会において、事例とともにエシカル消費の理解とより根付くための仕組みを考えていきたい。
経営診断推進委員会 ◎鈴木道彦、衣川益弘、木俣信行、吉岡庸光、丸山秀一	企業にインパクトを与えられるような新しい研究テーマを模索し、その成果を書籍化できるような準備をしている。レベルの高い内容を目指して、情報収集と議論を行い、書籍化に向けて取り組んでいく。
サステナビリティ経営会計研究会 ◎平岡秀福、川田敦相、蒙雪超	この研究会は、日本を含むアジアで活躍する日本企業やアジアの企業のサステナビリティ活動について研究し、アジアのサステナビリティ活動の実態を世界に発信することを目的とする。ここでいうサステナビリティとは、脱炭素化への取り組みや環境管理会計の手法等を有効活用した環境保全活動の取り組みのみならず、人的資本への配慮の取り組み度を測定・改善する経営会計のシステムも含んでいる。
環境ビジネス研究会 ◎井上尚之、白鳥和彦、小田利広	環境ビジネスに関わる問題点を闡明し、危険性を提言する。環境ビジネスシーズを探索し、企業化する方法を探る。

資料2

名称: インターナルカーボンプライシング研究会

代表: 村井秀樹/長谷川浩司

1. 研究目的

今日、カーボンニュートラルやカーボンハーフなど自主的な脱炭素目標を掲げる企業が増加している。ところが、具体的な削減の実行段階では、コストを伴う削減手段は敬遠され、低コストの省エネ活動などを現場に依存しており、脱炭素投資などの経営戦略と脱炭素活動が連動していないという大きな課題がある。これは、脱炭素目標を基点にして、設備投資や事業の収益性を評価するインターナルカーボンプライシングという手法が取り込まれていないからである。今後、民間企業では、インターナルカーボンプライシング導入のニーズが急速に高まることが想定される。この将来ニーズを捉えて、わが学会がインターナルカーボンプライシングを先行して研究し、研究成果を将来、企業に提供していくことを目指すプロアクティブな研究会活動である。

2. 発足の背景・活動方針等

研究目的に賛同する会員と研究会を発足するものである。民間企業に研究成果を提供し、企業のインターナルカーボンプライシング導入促進に繋がる研究活動を行っていく。したがって、理論研究と企業実務研究の両面からアプローチする。

3. 活動計画

2023年: 理論研究: 基本文献からの基本モデル確認・先行研究からの研究課題の抽出
実務研究: 先行導入企業調査及び導入企業の課題の把握
2024年: 書籍又はガイドラインの発刊を目指す

4. 研究会メンバー募集の考え方

積極的に参加者を歓迎する。参加者は、理論研究面及び企業実務研究の両方、または見識・関心のある方から研究会で積極的に報告することによる貢献が期待される。研究計画に基づいて適宜役割分担して調査結果を報告し合い、研究を進めていく。